

東近江学 第2回

東近江の教育文化遺産をたずねて
—寺子屋時習齋のテキストを中心に—

令和5年 8月6日(日) 午後1時30分~3時

江戸時代の寺子屋では、庶民の子どもたちは、強制されることも成績で序列化されることもなく、各自のペースで手習いの稽古に励み、生活に必要なことばと知識を身につけていきました。

特に、東近江市の五個荘地域は、寺子屋教育の盛んなところで、その一軒の寺子屋に伝わる往来物と呼ばれるテキストを調査した結果、周到な学習計画が実践されていたことがわかりました。

令和の日本型学校教育は、「個別最適で協働的な学び」を課題としています。現在と形は異なりますが、当地域ではかつてそれが試みられていました。



和田 充弘 氏

場 所:てんびんの里文化学習センター
ホールあじさい

講 師:びわこ学院大学准教授 和田 充弘 氏

定 員:50名(先着順) ※事前申込み要

参加費:300円



和田 充弘 氏 プロフィール

堺市生まれ。同志社大学文学部文化学科教育学専攻卒業。博士(教育文化学)。日本教育史、日本文化史を専攻。びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科准教授。主に教職課程の科目を担当。

江戸時代の民間文化人と地域社会が生み出した教育の特質を明らかにするため、往来物や教訓書といった書物を作る側だけでなく、それらに創意工夫を加えた使う側、つまり寺子屋からの分析を試みている。

参加者は博物館の展示室をご覧ください。

【お申込み・お問い合わせ先】

東近江市近江商人博物館
中路融人記念館

〒529-1421 東近江市五個荘竜田町 583

(てんびんの里文化学習センター内)

TEL 0748-48-7101 FAX 0748-48-7105

IP 050-5802-3134 ※休館日:月曜日、祝日の翌日

